

(様式2)

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200224		
法人名	社会福祉法人 信濃川令終会		
事業所名	グループホーム せったや		
所在地	新潟県長岡市撰田屋2701-14		
自己評価作成日	平成22年5月7日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成22年6月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生きがいと安らぎのある充実した生活(暮らし)を理念に掲げ、日々理念の達成できるよう支援しています。個性豊かな利用者さんたちですが、少しでも笑顔で過ごして頂けるよう職員も意識していつも笑顔で生活を共にしています。利用者同士口論になったり、お互いの仕事が気になったりも当然あります。だからと言って、すぐに職員で介入・仲裁せず、ジャッジマンにならないようにしています。利用者間で妥協したり、譲り合ったり、他の利用者の助言をもらったりする場面もあります。お互いの存在を認め合い、せったやという家の中でそれぞれが役割を持っている事に自信や誇りを持っていられます。できる仕事やわかる事が少しなってもきちんと相手を認め、支え合い、協力し暮らしています。職員も支援している側でなく共に支え合って暮らしを共にする同居者であるよう心掛けています。家庭と全く同じようにというわけにはいきませんが、職員も時には嫁であったり、孫や、娘のように存在になり、利用者がその希望や心配事を易く話せるようゆったりと温かい気持ちで一緒に暮らしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は職員の心構えとして「笑顔」の重要性を説いている。職員が笑顔で気持ちよく仕事に向かえば、笑顔は伝染し利用者の表情も自然と生き生きと明るくなっていくものとの思いがある。管理者が自らが率先して「笑顔」の発信に努めている。
開設1年を経過したばかりの新しい事業所であるが、運営者をはじめ、管理者・職員は地域の方々との交流やつながりをとても大事にしている。管理者は近隣の保育園、小、中学校などを訪問し、ホームが発行している広報誌を構内に掲示させてもらうなど、ホームの広報・周知に取り組む、地域の方にとって開放的なホームづくりを目指している。町内の方々や地域の商店とも顔なじみであり、気軽に声をかけてもらえる関係ができています。地域の方々との日頃の交流や連携の感謝の意も込めた「ふれあい祭り」では地域住民に向けての介護相談会を開催するなど地域のために貢献したいという意欲も感じられる。
また、家族と職員の交流を目的とした「カーネーションの会」を発足させ、何でも話し合える良好な関係づくりに取り組んでいる。会では、家族と職員が協力して利用者を支えていこうという気持ちの確認を行っている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生きがいと安らぎのある充実した暮らし」を理念に掲げ、ミーティングや日々の業務において確認し合い実践につなげている	「生きがいと安らぎのある充実した暮らし」を事業所の理念として掲げており、職員や利用者が暮らしの中で共有できるよう見やすい場所に掲示されている。日々の利用者との関わりについてミーティングで確認し、理念の実践に努めている。	現在の理念は前管理者のもとで作成されたものであるが、現管理者が持つ利用者、職員への想いも理念にも反映されることで、地域や家族にもより伝わるのではないかとと思われる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に参加して貰ったり、地域の祭にも参加。地域の自主防災会の訓練にも参加している。散歩時には地域の方と気軽に挨拶、世間話をしている	地域の方や商店とも顔なじみになっており、気軽に声をかけてもらえる関係ができています。近隣の保育園、小中学校などを訪問し、ホームの広報誌を掲示させてもらったり、見学・実習受け入れの案内をするなど、地域との交流を進める工夫をしています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事では福祉介護相談コーナーを設け地域の方の支援理解に努めた。町内会長は地域の高齢者の相談に気軽に来所されている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動内容(行事・防災)を中心に報告を行っている。委員からの意見を活かしサービスの向上に努めている。	利用者代表、家族、地域の代表者、民生委員、行政担当者の参加を得て2ヶ月に1回開催し、ホームの活動報告や意見交換を行っている。防災などについても議題にあげ、地域にホームをよく知ってもらい、緊急時など協力が得られるよう関係づくりに努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営等について市の担当者と連絡を取り相談や意見をもらう等連携を図れている。	運営推進会議には2名の行政担当者の参加を得て、情報の交換や指導、アドバイスを受けて連携・協力している。日頃からも必要時には相談をしている。行事の際の認知症相談コーナーの設置も、行政担当者からのアドバイスを受けて行っているものである。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から職員間で意見交換している全職員が正しく理解しているか日々の業務でも確認をしている	法人が実施した身体拘束に関する職員の意識調査の結果を踏まえ、ホームでも職員会議などで身体拘束をしないケアについて話し合いの場を持った。スタッフルームにも虐待の具体的な行為について掲示し、意識しながら身体拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から職員間で利用者の関わり方について確認し合い防止に努めているが研修等への参加が少なかった。	高齢者虐待についての資料やマニュアルが整備され、職員同士でお互いに気をつけているが、研修会に参加したり、ホーム全体で勉強する機会は持たれていない。	身体への直接的な虐待だけでなく、心理的な虐待やケアの放棄などについて、また、職員の精神状態が利用者のケアに影響することなども含めて職員全体で高齢者虐待についてより深く学ぶ機会を持つことを期待したい。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会はあるが制度が複雑で理解しにくかったり必要性を感じる事例がなかった為理解が浅く今後研修等で理解を深めていきたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い納得を得た上で手続きを進めている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは面会時日頃の会話を通じて家族とは面会時や電話連絡の際に意見や要望を聞いている。出された意見はミーティング等で話し合い、サービスに反映している。第三者委員会も設置している。	日々の関わりの中の何気ない利用者の言葉からも、不満や要望をとらえるよう努めている。家族からも面会時や電話連絡の折に意見や要望を聞くようにしている。把握した意見や要望は詳細に記録して対応を検討し、運営に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤で管理者ホーム長が勤務しており、いつでも部下の提案を聞ける体制である。また、話易い環境になるよう努めている。月の1度の定例ミーティングでも提案は聞き、運営に反映させている。	管理者は、普段から職員が気軽に意見や提案を言えるような雰囲気づくりに努めている。月1回の職員ミーティングも、職員から意見や提案が出やすいよう、司会を職員が持ち回りで行うなどの工夫がされ、出された意見などは運営に反映させるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員個々の日頃の勤務状況、態度を細かく報告を受け必要時には面接を行い、気持ち良く働ける環境整備に努め職員全体のモチベーションの維持にもなっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や日頃の業務の様子から力量の評価をし、その力量に応じて研修を受ける機会を確保している。法人内においても各委員会が開催する研修会があり職員の知識や技術の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在まで他事業所と交流の機会がほとんどなく、今後は他事業所と連絡方法や交流手段を含め検討が必要。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い生活状態の把握や本人の話を聴取することで不安や要望等を受け止め理解しようと努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることはもちろん現在に至った経緯や苦労をきちんと聴取しその思いを受け止め今までの努力をねぎらっている。今後家族が負担を抱え過ぎず、利用者と関係修復やいい関係が保っていけるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GH利用が適切であるのかも含め相談時の本人と家族が必要としている支援について検討している。他のサービスの説明や利用についても提案する事もある。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事作りや後片づけ買い物など利用者と協力しながらお互いに支え合う気持ちを大切にしている		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にして、面会時や電話、おたよりなどを通じて本人と共にを支える為の関係を築いている	職員は、「家族でなければできないこと」を理解し、家族と協力して利用者を支援している。家族と職員の交流の会「カーネーションの会」を発足させ、利用者を共に支えていくという意識の再確認と良好な関係づくりに努めている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の面会や外出なども多くある。又、住んでいた地域へドライブに出掛けたりして地元の住民とも継続的に交流できる支援をしている。	「住んでいた家の畑がどうなっているか見に行きたい」などの利用者の要望に応え車で出かけたり、親戚や知人との外出や面会など、馴染みの人や場所との関係が途切れないようにできる限りの支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作りや後片付けなどの他にもあらゆる場面で利用者同士の支え合いや関わりが見られる。孤立等がなく楽しく心地よく過ごせるようさりげない配慮を心掛けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者はまだいないが他施設入所されたり入院されたりした場合は経過的な支援をしていきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向の把握の為、職員間で情報交換をしたりミーティング時に検討している。常に利用者の立場に立ったサービス提供を心掛けている。	ホーム独自のアセスメント様式やセンター方式のアセスメントの一部を活用し、本人の想い、家族の想いなどを聞き取り記録に残している。聞き取りが困難な利用者には、日頃からの様子やしぐさからその方の思いを把握するよう職員全体で取り組んでいる。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に収集した情報以外にも利用者との間、家族との間の信頼関係が深まるとともに日々の会話や面会時色々な話が聞けている。	家族や、入居前の担当ケアマネジャーなどから利用者一人ひとりの生活歴や暮らしぶりなどについて聞き取り、本人の全体像を理解するよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はゆったりとした気持ちで利用者に関わり見守ることで利用者の1日の過ごし方や心身の変化を把握できている。有する能力を本人も職員も気づけるよう様々な日常での体験をこれからも支援していきたい		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや希望を基に職員間で意見を出し合い計画立案し、モニタリングを実践している。協力的な家族が多く今後も家族からのアイデアを更に取り入れていきたい	アセスメントにより、本人の思いやできることなどを整理するとともに、職員間でさまざまな意見を出し合い、介護計画を作成している。できる限り本人、家族にも話し合いに参加してもらい、本人本位の介護計画になるよう努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実践、結果や次計画作成時のモニタリングがしやすいような記録を心掛けているが、今後も職員の意識づけが必要又、職員全員が確実に情報共有できるようノートも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況や状態に応じ、話し合いのうえ柔軟にサービスを提供している。同施設内のデイサービスを活用したり法人のサービスも活用。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の町内会長の協力で地域行事に参加したり、買い物に行ったり、図書館に行ったりと利用者が望む生活に少しでも近づけるよう支援を心掛けこれからも様々な資源を使えるよう柔軟な対応をしていきたい		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時の主治医へ受診を継続している。新たに受診する場合は本人と家族に意向で受診先を決定。本人の状態を考慮し往診を依頼したり職員も同行しての受診で情報提供や助言を家族と共にもらっている。	本人や家族の希望を尊重し、ほとんどの利用者が在宅時からのかかりつけ医に継続して受診している。そのため、主治医と本人、家族の良好な関係が保たれ、必要時往診の支援も得ることができおり、安心が得られている。受診の付添や情報提供など、かかりつけ医とホームとの連携体制もできている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師はいないが1階のデイサービスの看護師に迷うところや不安があれば相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在まで入院者はいないが入院の際には病院のケースワーカー、家族と連携を図り早期の退院を実現したい。病院に訪問し状態確認や担当者会議にも出席する意向である。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の意向を確認し事業所で対応できる範囲を説明している。利用者の状態や家族の可能な協力をしっかりと把握し、臨機応変に対応したい。1階のDSの看護師にも協力をお願いしている。終末期については段階的に本人家族の意向を確認していきたい。	「1日でも長くここにおいてほしい」との本人、家族の希望を大事にし、主治医、家族、ホームが連携し対応していくことを申し合わせており、主治医に随時相談・連絡できる関係が構築されている。職員間でもその方針が共有されている。終末期については、今後、時期を見ながら段階的に本人、家族の意向を確認していく予定である。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてはマニュアル作成し習得できるようシュミレーションを実施した。今後も有事に慌てる事ないようシュミレーションしていきたい。緊急時の対応についても法人の救急蘇生法の研修に参加している。	急変時の対応マニュアルが整備されている。特に職員が1人となる夜間の救急車手配や初期対応などについてのシュミレーション訓練を定期的に行い、事故発生時などあわてることがないよう実践力強化に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した計画を立て実施を行っている。今後も訓練を定期的実施し随時、見直しを図っていく予定。地域の住民にも災害時の緊急連絡網に名前があり有事には協力体制が出来ている。	日中・夜間を想定した防災マニュアルがそれぞれ整備されており、避難方法、緊急連絡網なども整理されている。町内会長や、地域の消防団員2名にも緊急時連絡がつながり、地域の支援も得られるようになっている。年2回の防災訓練と抜き打ちの緊急連絡網の訓練を実施している。スプリンクラーも設置されている。	夜間の1人体制や、ホームが建物2階にあることへの避難誘導における職員の不安を踏まえ、今後さらに、災害時における安全対策を包括的・継続的に検討してほしい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の為にわからない事等で恥ずかしかったり誇りを傷つけられることの無いよう言葉かけを行っている。プライバシーに関しても利用者間であっても職員間であっても配慮しなければならないと感じている。	個人情報に係るファイルは第三者に見られることがないよう鍵のかかる保管庫で管理している。また、排泄の失敗があった場合など、本人のプライドや誇りを傷つけないよう言葉かけや対応を職員全体で心がけている。新人職員には3ヶ月間の研修期間に、基本的な言葉かけ・対応について教育・指導が行われている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望表出ししやすい和やかな雰囲気づくりに努め、あらゆる場面で小さな自己決定の場を設けている。又、日頃の関わりから心の変化を見逃さずさりげない援助が出来るよう心掛けている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活パターンの把握と共に、今、何がしたいかしたくないかを聞いたり様子観察に努めている。色々な生活体験が出来るよう支援も心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに気を使う方が多く好みもはっきりとされている。新しい服やいつもと違った着回し時は他の利用者さんを巻き込み褒め合ったり楽しい時間が持っています。散髪には家族と協力し馴染みの所へ行かれています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれ気遣い声を掛け合い役割を持って準備かたづけを行っている。買い物から調理を一緒に行うことで好みや味付け、食べやすい大きさを相談しながら入っている。	利用者と職員と一緒に近くのスーパーへ買い物にいたり、下ごしらえを協力して行い、「皆でご飯作りをしている」という雰囲気を作るよう努めている。ご飯とパンを選べるようにするなど、食事が楽しみになるよう考えながら支援をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の献立を基にしているが、利用者の状態観察・把握に努め水分・食事を加減している。食が進まなければ好きな物を1品増やしたり、雑炊にする等をしている。おやつも一緒に作ったり食欲増進に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後、夕食後に歯磨きの声掛け援助を行っている。援助が必要な方も一緒に行っている。又、歯科の協力医院から口腔内の状態を検診して貰い口腔ケアの参考にしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがあればすぐ対応し居室のトイレに誘導し支援を行っているが、訴えの無い方には本人の様子から排泄パターンをつかみ適宜誘導を行っている。利用者全員が多少の失敗はあるがトイレでの排泄が来ている。	利用者一人ひとりの排泄行動のサインを見逃さず速やかに対応することを心がけている。また、支援方法や排泄用品等については本人本位で無理のないよう検討し、紙パンツから布パンツへの切り替えなど、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には乳製品を多めに勧めたりしている。法人特養の献立を基に繊維質が多い食事も提供し、午前中には体操も行っている。排便チェックも行い排便リズムの把握や快便の参考にしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お風呂は用意している。ゆっくり入り、リラックスして頂けるように入浴剤を使ったり声掛け援助を行っている。午後入浴希望が多い為、入浴時間は午後となっているが希望があれば夜間や午前でも対応はしたい。	これまでの生活習慣や希望に沿って本人が望む時間帯にゆっくりと入浴できるよう支援している。希望があれば毎日入浴することができる。介助を行うときは1対1で関わり、おしゃべりなどをしながら、くつろいだ気分になれるよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆったりと過ごして頂く時間を大切にし休養休息して貰ったり、レク等で身体を動かす、創作活動で頭を使い安眠に繋がる様に支援している。利用者のリズムに合わせて安らいだ気持ちで毎日過ごせるよう工夫していきたい。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を個人別に分かり易くファイリングしており、すぐに確認できるようにしている。飲み忘れ防止に飲み込むまでを見守っている、誤薬防止には夜勤者が個人別に袋詰めし、服薬時には内容と名前を再度確認。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や清掃等できるところは行ってもらっている。裁縫が得意で縫物担当の方や利用者個々に役割が持て仕事をする張り合いが持てるように支援している。お酒の好きな利用者には晩酌も楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や状況により外出できない日もあるものの希望があれば対応している。また、家族と連携協力しその時々で状況にあった対応に努めている。	利用者のその日の体調や気分を大切にしながら、近くの公園などへの散歩に出かけている。また、「実家の畑を見に行きたい」などの個別の外出希望にも柔軟に対応している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物が好きな方やお金があることで安心される方には所持して頂いている。買い物外出の機会も週に3回はあり、支払いの援助も行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者はいつでも電話が利用できる事を理解している。子機を居室に持って行かれ他者を気にせず話せるようにしている。見守りや取次が必要な方にはできない所のみ支援している。手紙についても同様である。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓はもちろんだが常に衛生的であるよう努めている。空調は利用者に設定温度を確認し調整している。食堂には利用者で作成した季節の折り紙細工を飾ったりし日常生活で何気なく季節を感じてもらえる工夫をしている	食堂には季節感を感じてもらえるようなさりげない飾り付けをしている。畳の和室もあり、冬はコタツを出してくつろげるようにしている。共用空間は整理整頓、清潔をモットーとし、気持ちよく過ごせる室温設定や換気などにも気を配っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に設置してあるベンチは入居者同士が談話できる良い空間づくりに役立っている。リビングには和室もあり、友人や家族にも自由に使ってもらえるようにしてある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談して貰い馴染みの家具や愛着のある物品を持ってきていただいている。落ち着いて心が穏やかに過ごせるよう壁には手紙や似顔絵等も貼られている。	安心して過ごせるよう、利用者本人の長年使い慣れたものや好みのものを居室に持ち込んでもらっている。自室にあるトイレ・洗面台は、必要に応じて定期的に職員が清掃し、気持ちよく過ごせるよう支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを付け、トイレへの案内の張り紙をしたりして、不安や迷いなく生活できるよう工夫している。わからない、という事で自尊心を傷つけないような声掛け援助も心掛けている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない